

要旨

女性の活躍推進が言われて久しく、企業における女性活躍や指導的立場の女性を増やすことには力はいれられているが、農山漁村における女性の参画は目覚ましく進んでいるとは言いがたい状況にある。女性がジェンダーにより不均等に配分された補助的役割を担う問題は根強い問題であるが、今までは主に性別役割分業から論じられてきた。しかし、農業でも固定的な性別役割分業の先にある男性用の仕事、女性用の仕事と分けられる性別職務分離が起きているとの指摘がある。性別職務分離は労働市場に大きなジェンダー格差を生み出し、賃金及びキャリアの男女格差が生じる要因となっている。

本研究の目的は、都市近郊において農業や農業関連の仕事に就いている女性の現状や固定的な性別役割分業についてみていくとともに、性別職務分離の状況を検証し、千葉県南房総ゾーンの隣接する地域において女性がどのように力をつけていくことができるかを明らかにすることである。「力をつける」とは金銭的な基盤を持つこと、ネットワークを持つこと、自分に自信を持つこととして考える。調査の結果、主に以下の3つのことが明らかになった。

第一に、農業においても性別職務分離が起きていることが明らかになった。家庭内で性別役割分業が生じることが農業における性別職務分離につながり、女性は力をつけることが難しい仕事を担う傾向にあった。また女性農業者は「丁寧な手仕事」や「集中力が必要とされる細かい作業」といった女性性のイメージに近い作業が向いている仕事とされていた。家族経営のなかで働く女性農業者は、特に性別職務分離の影響を受けているといえる。

第二に「力をつける」ことについて3つの指標すべてに共通し「仕事の割り当て」が大きく影響していた。女性農業者に割り当てられる仕事が周辺の仕事ではなく中心の仕事であることが、力をつけることにつながるため、農業キャリアを積む中で、中心の仕事に移行するというステップアップが必要となる。

第三に、3つの指標の他に、「家族から理解を得ること」も力をつけることに関して大きく影響していた。家族経営協定を結ぶことは重要であり、女性農業者が協定の知識を持つことも必要だが、家族がその価値を理解し、認識が変わらないことには協定を結ぶアクションには繋がらないだろう。関係機関と協力を取り、あらゆる就農形態においても同様に、家族と共に制度的な面でも理解を得られる仕組みが必要である。

女性たちに力をつけることを押し付けるのではなく、女性たちが目標に向かい行動を起こせる環境を関係機関などを通して整えることが重要であると考えられる。